



志津南

8月号

news

志津南ホームページ
https://shizu373.net

志津南学区の人口（6/30 現在）
世帯数 2,589 総人口 6,827 人
前月より + 10 人

発行
志津南学区まちづくり協議会
TEL 077-563-6206
FAX 077-558-6810
E-mail shizu373@machikyuu.jp

あいさつに立つ橋川渉市長（中央）
と総合司会の井上麻子さん（左）



世代から家族連れまで約600人が一つになる機会となりました。約二カ月の準備期間でしたが、「いざ」に備え、顔の見えるまちへ」をテーマに、現体制で運営可能な企画を、手探りで模索しながら進めてきました。急遽編成された運営委員会や、地域のボランティア、センターのサポーターの皆様の協力をいただき、無事に終えることができました。

志津南学区まちづくり協議会（四万道治会長）は、6月28日、若草中央児童公園でミニ防災フェスタを開催しました。厳しい暑さでしたが、総合司会にラジオパーソナリティの井上麻子さんを迎え、ラジオブースに見立てた音響席での軽妙なトークが秀逸でした。協力団体や出店団体を巻き込み、シニア



防災関連情報

「いざ」に備え 顔の見えるまちへ

志津南ミニ防災フェスタ開催



会場中央に登場したトイレトレーラー

ました。事前の会場の草刈りや土入れなどには、若草環境ハワーや若草一味クラブをはじめとする多くの方のご尽力をいただきました。当日の会場では「き

「地区防災計画」濃い議論展開



西情報センターのかじ取りで、立命館大学の金度源先生からアドバイスをいただき、約2時間濃い議論が行われました。第1回会議で提示された個々の課題を取り上げ、それぞれについてワークショップ形式で意見を出し合い、立命館大学から6人の学生達も参加し、具体的な対策へ集約していきました。

臨時理事会開く



志津南学区まちづくり協議会は7月5日、臨時理事会を開催しました。写真。

6月14日に行った、第1回「地区防災計画策定委員会」の内容を共有すると共に、市からの「地域課題解決応援交付金」制度活用申請を、今年度は見送ることなどで合意しました。

議事録は、志津南ホームページで閲覧可能です。

れいな公園ですね」の声も聞かれました。「いざ」の際には公園が一時避難場所となるわけで、こうした場所が普段から整備されていることの大切さを改めて感じました。

た立派なもので、市内初お披露目だったそうです。一般参加者アンケートでは「トイレトレーラーが増えるといいな」「飲食ブースの出店もあり、身近な公園で防災について楽しく考える機会となった」「防災について考え直すいい機会になった」など、概ね好評でした。（2面に関連記事）

2班に分かれ、地震発災時の避難行動や学区の災害対策本部など組織のあり方・役割について議論を行うことができました。今後は、今回のようなコアメンバーによるワークショップを2回行い、そこでできたたたき台を策定委員全員による全体会議で採む、というプロセスを繰り返していく予定で、理事会ともしっかりと情報共有をしていきます。

公園いっぱいに笑顔広がる

これまでも訓練を軸とした防災イベントは何度も開催されてきましたが、「顔の見えるまち」を目指して...というところで、様々な模擬店が並んだのは初めてとなりました。

〇：震度5強も体験

湖南広域消防局南消防署から起震車「グラドン号」、レスキュー車、煙中体験テントがやってきました。

グラドン号では震度2から5



テーブルに身を隠す
起震車参加者

炎が見える
かまどベンチ



〇：かまどベンチ

災害時を想定し、火起こしをして、豚汁を作れるようにしました。「かまどベンチ」で火が燃えているところを見たのは初めてという人が大半。

平常時は憩いのベンチとして、災害時はかまどとして、湯沸かしや炊き出しができ、寒いと、暖をとることもできます。

強まで体験。小さい子から90歳

代の方まで、多くの方が地震体験をしました。

「わかっていながら大丈夫だったけど、急にこんな揺れが来たら何もできない」という感想も。何も知らないときより少し

〇：消防士に变身



水消火器に
挑戦する子ども達

子ども達にとっては、何と云っても「消防車」はヒーロー。

草津市消防団第二分団(山本久幸分団長)は、隊員6人がポンプ車で出動参加しました。

会場では、主に子どもたちを対象に、水消火器を使って消火訓練を行ったり、子ども用防火服に着替えて記念撮影を行ったりました。

は心構えができたと感じた参加者の方も多かったようです。

〇：模擬店に誘われて

今回の防災フェスタの特徴は何と言っても、模擬店もたくさん

暑かったので、
人気だったかき氷



キャンピングカー室内

〇：キャンピングカー登場

会場には、キャンピングカーや、非常時給電システム搭載車も登場しました。防災にキャンピングカー?という違和感もありましたが、考えてみると、トイレや冷蔵庫・電子レンジなどを備えた空間は、家屋内に留まることが危険があるような非常

さん並んだこと。

いざという時に、ご近所同士助け合えることは、大きな力となります。その為には、日頃から顔を合わせ、会話を弾ませ、おたがいの距離が近いことが理想です。

堅苦しく「防災」と聞くと遠のく足も、立ち並ぶ模擬店テントに誘われて、



駄菓子だけでなく、
ボードゲームも人気

時、車中泊に利用できます。

非常時給電システムも、レジャー時だけでなく、災害時や停電などの際、車両から電気を取り出して使用できるという大きなメリットがあります。

こうした車を移動拠点として活用することで、災害対応力は高まると考えられ、昨今の災害発生状況に、防災意識の高い企業等は各種取り組みを進めているようです。

車内からの給電で、温かいコーヒーが振舞われていました。

防災の心構え学ぶ



講師の話に耳を傾ける参加者

会場に足を運んでくれた家族連れも多かったようです。とにかく暑い日だったので、「冷たい」系が人気でした。

また、おにぎりや豚汁を20人のボランティアが作り、振る舞っていました。

若草二丁目防災・防犯ボランティア(橋本優代表)は6月28日、若草二丁目集会所で、防災講座「防災の心構え!」を開催しました。自主活動の一つとして、草津市危機管理課から講師を招き、17人が参加しました。滋賀県の地震事情から、日頃の我が家の防災、地震発生時の行動(町内会としての行動含む)などを学びました。



今月の

志津南文庫



世界中がキミをフスと呼んでも、ぼくにとっては世界一。そんなふうに自分を丸ごと受け入れてくれる。そのまの自分でいいと思える大人の絵本です。

ノラネコぐんだんカレライス 工藤ノリコ 白泉社
失敗しようがない!ヘタ筋トレ 森拓郎 ワニブックス
88歳現役医師のときめいて生きる力 帯津良一 主婦の友社
大人は知らない今ない仕事図鑑100 監修・澤井智毅 講談社
誰かのための物語 涼木玄樹 スターツ出版

他

教室を飛び出して学べること

志津南小学校（丹羽浩之校長）では、新しい学年にすっきり馴染んだ子ども達が元気に学びを広げています。

◆ 充実のダイキン見学

三年生児童が6月30日、社会科「工場ではたらく人びとの仕事」の学習で、ダイキン工業滋賀製作所へ見学に行きました。天候にも恵まれ、子どもたちはとても楽しみに見学に向かい

会社についての話を聞く三年生



ダイキン工業の門をくぐると、工場内のあちこちで仕事をされている方々が笑顔で迎えてくださり、広い敷地内を通って全員が話を聞ける場所に案内されました。ダイキン工業全体についての話があり、その後、エアコンの室内機を作る工場内を見学するグループと、その場所ですлайドを見たり、クイズをしたりしながら環境学習をするグループとに分かれて、ローテーションで活動しました。工場内では、すぐ近くで社員さんがエアコンの組み立てをしていたり、エアコンが順番に移動していたり、無人の運搬用機械が通っていたり、目を引く

ました。

連日これまでに感じたことのない猛暑の日々が続きます。



浮かび、懐かしい記憶へとつながります。

夏祭りの賑やかな音や風や彩りの先に、カラフルなボーイを握った子ども達と泳ぐ金魚が目につく。

(さくらんぼ)

ものばかりでした。

多くの方のご協力で、充実した見学になりました。ありがとうございました。

◆ 初めての点字体験



四年生児童が7月7日、総合的な学習の時間「福祉学習」で、点字体験学習を行いました。写真。

「大津点訳グループ」から講師5人を招き、点字の読み方や打ち方を丁寧に指導していただきました。点字を打つ「点字盤」を一人一台貸していただきましたが、初めて見る児童が大半で不思議そうな面持ちでした。

右から一文字ずつ、決められた位置に点筆を使って穴を開けます。用紙に「ブツ」と穴を開ける感覚で作業を進めていきます。最初は、短い単語、その後自分の名前や学校名を打ち込みました。途中、読み方を児童に質問したり、確認したりと楽し

がとうございました。学校ボランティアの方々にも、お世話になりました。

しく活動できるよう指導いただきました。

打ち終わった用紙を裏向けて指先で触れると、突起の並んだ点字が左側から並ぶようにできました。

◆ 自然の面白さ実感



ルーペで生き物を観察する子ども達

一年生児童が7月1日、生活科「なつがやってきた」の学習の一環として、自然に詳しい講師にきていただき、地域にある「若草中央児童公園」の生き物を観察しました。

中央公園に着くと、一人に一つずつ観察用のルーペを貸していただき、そのルーペを使って地面の様子を観察したり、木の葉や草花、虫を観察したりしました。大きく拡大した生き物の様子に、児童たちは歓声を上げ

上がっており、このことに児童達は驚いていました。

生活の中にある「点字」を大切に扱ってほしいというメッセージも話されました。

当日の講師はもちろん、点字盤をお貸しいただいた草津市社会福祉協議会の協力があったからこそ体験活動となりました。

ていました。

耳を澄ませて自然の音を感じたり、呪文を唱えて葉の匂い

手形足形で大小さまざまな織姫彦星

子育てサークル若草おやこクラブ（山出聡子代表）は7月3日、志津南まちづくりセンターで七夕会を開催しました。

今年も毎年恒例の子どもたちの手形・足形を使って織姫と



を感じ取ったりといったネイチャーゲームを楽しみながら、自然の面白さを実感することができました。

講師の児童に興味を持たせるような声かけのもと、五感を使って、夏の自然を感じる良い学習の場となりました。

また、「学校ボランティア」の皆様も多数参加いただきました。道中の見守りや活動の補助など、お世話になりました。ありがとうございました。

彦星を作りました。0歳からもうすぐ3歳を迎える子たちがいる今年のおやこクラブ。とっても小さいものからちょっと大きく成長したもので、大小さまざまな織姫さまと彦星さまがで上がりました。写真。

そして今年は、5月にセンターで摘ませていただいたピオラ

で笹飾りを作成しました。前回、段ボールで作った丸枠の中に木工用ボンドを流し入れ、押し花にしてあったピオラを貼り付けて乾燥させました。

当日は段ボールにちぎった折り紙を思い思いに貼り付け、世界に一つの笹飾りが完成しました。できた飾りや願い事をそれぞれが笹に飾り付け、みんなニコニコの七夕会となりました。

人によって違うのが「普通」

クレアホールで開催された研修講座



草津市町内学習懇談会推進者研修講座(第1・第2講座)が7月5日、クレアホールで開催され、人権推進委員、各町内会長・自治会長が参加しました。

第1講座は、矢倉学区未来のまち協議会の山田和子さんが講演されました。一つの事実に対して自由に話し合う「事実と意見の違いを見つめる」また、「決めつけと差別」というテーマ

でワークシート形式の町内学習懇談会の成果を説明されました。多様化する社会で「普通」はみな同じではなく、違うのが「普通」と話されました。

第2講座では、近畿大学名誉教授の奥田均さんが、「部落差別」について話されました。「部落差別はまだあるの」「どこにあるの」「そっとしておけばいいのでは」という「寝た子を起すな」論について、同和教育・人権啓発は、寝た子を起すものではなく、日常出会う偏った情報で部落問題を差別的に知ってしまう事になることを正すものだと言明されました。

「無意識の加差別」という言葉にも気づかされるものがありました。

やすらぎロクハ荘へ

志津南まちづくりセンターやすらぎ学級は6月25日、学級生

には、松竹撮影所など映画の拠点も点在、歴史を感じました。最後に、秦氏一族の墓とされる7世紀築造の前方後円墳「蛇塚古墳」を訪ね、石室の佇まいに古代の息吹を感じました。

道中や現地では野津さんの解説を通じ、古墳時代から現在まで続く歴史に、知的好奇心が刺激される一日となりました。



20人でロクハ荘へ行きました。ロクハ荘では「お出迎え講座」を開催していただき、まずはロクハレクを体験しました。ロクハレクでは音楽に合わせて体操したり、体を使って後出しジャンケンをしたりと頭も体もフル回転でした。写真。

その後、eスポーツ体験をしました。今回体験したのは太鼓の達人。1回にプレイできるのは2人なので、見ている人は大きなメガホンを両手に持ち、太鼓の代わりにメガホンを打ち鳴

らして参加しました。「となりのトトロ」の音楽に合わせて、何度も体験するうちに、皆だんだん上手になっていきました。

昼食後は、ロクハ荘・ロクハ公園でみんなそれぞれ自由に過ごしました。公園散策をする方や館内でマッサージ機に癒され

る方、カラオケで盛り上がる方など、あっという間の楽しい時間でした。

パソコンの駅
▽パソコンについての相談
9月25日(木)
13時~16時



「安心のバトン」のご案内

「安心のバトン」の配布を本年度も行います。

「安心のバトン」は、急病などで倒れた際、駆けつけた救急隊員等が素早く対応できるよう、持病やかかりつけの病院、服用薬、緊急連絡先などを記し

ます。

なお、既にバトンは持っているが記載内容の書き換えが必要な方には用紙だけお渡しします。また、希望者には冷蔵庫貼り付け用マグネットケースをお渡しします。



安心のバトンとマグネットケース

申し込み方法、配布時期、取り扱い方法等の詳細については近日中にお知らせいたします。

京の今昔偲ぶ旅

嵯峨野太秦

志津南まちづくりセンターは6月18日、教養文化講座第2回「時をつなぐ歴史旅」を開催。13人が参加し、ボランティアガイド野津隆さんの案内で嵯峨野の大覚寺や渡来人系の氏族、秦氏の氏寺である広隆寺などを巡りました。

大覚寺は嵯峨天皇の離宮を前身とし、弘法大師が修法を行った地として知られます。平安時代、嵯峨天皇は弘法大師の勧めで般若心経を書写し、疫病退散を祈願。これを機に「写経の根本道場」とされ、歴代天皇の写経も勅封されています。日本最

古の人工庭池「大沢池」の周囲



大覚寺表門に立つ参加者

を散策し、風景も楽しみました。広隆寺は、聖徳太子に賜ったとされる国宝「弥勒菩薩半跏思惟像」を本尊として建立。右手を頬にあて微笑む像の前では心が穏やかになりました。

中国・朝鮮半島からの文化や技術を伝えた秦氏は、産業や文化の発展に大きく貢献した一族で、居住地「太秦」と呼ばれるようになりました。まち

第3回「時をつなぐ歴史旅」を次の要領で開催します。

▽日時 10月18日(土)

▽内容 秀吉の城下町、長浜を歩く&ガラス細工体験

▽定員 25人(小学生以上)

▽募集期間 9月1日~11日

詳細は8月末頃より、HP、閲覧等で案内します。